

# 人権や平和憲法を守ろう

## 関連動画で学んだ職員の声から

組織強化月間8つの目標の1つに「いのち・くらし・平和の学習を深めるため、民医連学習動画や民医連新聞などを用い、地域・職場で話し合い、人権や平和憲法を守ろうの声を広めましょう」がありました。関連する動画を観た感想が157名から届きましたので紹介します。

### 憲法改悪を許さない！

#### 全日本民医連

#### 学習決起集会学習講演

\*今の内閣の安保政策の進め方や防衛費に43兆円も費やしていること、

平和国家や平和主義なのに、敵基地攻撃能力を持ったことのおかしさが理解できませんでした。戦争にならないよう外交をして国民の平和を守ってほしいと思います。

\*他国から軍事侵攻される可能性はゼロではないため、自国を守るための何かは必要。大軍拡ではなく、外交での話し合いに力と税金を使ってほしいです。

\*憲法に触れず、安保3文書が閣議で決まっています。国民に是非を問うことも議事録も誰が賛成したかもない。憲法9条が無視されている現状に、憲法を守るよう声を出していくことが大事。

平和、いのち、くらしを壊す大軍拡・大増税を止めよう！

ウクライナ戦争と憲法9条を踏まえて



### 大軍拡ハンタイ

#### ザ・ムービー

\*自分の子どもが戦争に行くことになるかもしれないと思うと是非でも阻止せねばと思った。\*子ども目線で分かりやすかった。「国民の生活

を考えてない、国民に信を問うべき」はまさにその通りだと思う。\*今の政府は全く国民のことを考えていないことがより分かった。

平和国家や平和主義なのに、敵基地攻撃能力を持ったことのおかしさが理解できませんでした。戦争にならないよう外交をして国民の平和を守ってほしいと思います。

## 老健ちあきで認知症カフェ

### 笑いながらつながりましょう

12月9日、「かたらいカフエ」を開催しました。フエ〜地域で支えよう認知症〜と題し、認知症知識と予防のテーマで、

なっている生活習慣を続けていくことで、認知症予防になるということを知っていただくことができました。

例えば調理をする工程を思い浮かべると「今日のご飯は何にしよう?どうやって切ろうか?何から作ろうか?」と手順や効率を考えながら、複数の作業をすることは認知症予防にピッタリだそうです。

また1日30分以上の運動をすること、その継続が大切です、水分補給も忘

れたいと思います。運動の紹介では、リハビリ科職員による、家で座りながらでもできる体操や、頭で考えながら同時に身体を動かすコグニサイズを行いました。

今後このような機会を繰り返すことで、顔馴染みの関係性ができるので、地域とのつながりが広がるような企画をしていきたいと思います。

もみじ棟 日比野 浩子

2日目のテーマ別セッションでは、SDH(健康の社会的決定要因)と健康格差、沖縄の基地と平和、気候変動、ヤングケアラーの問題について講演とグループワークを行いました。自分たちは何が得意なのかを意見交換しました。ほかにもゲームや班交流等を通して普段接する機会のない他法人の職員とも交流することができ、青年職員同士の横のつながりを深められたと思います。

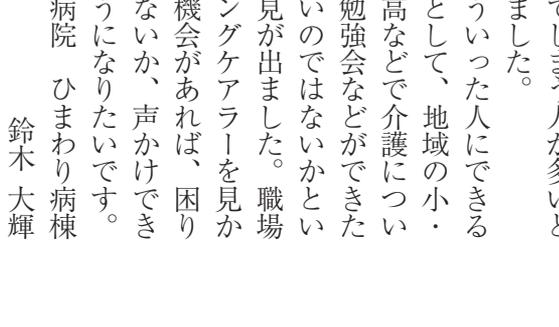
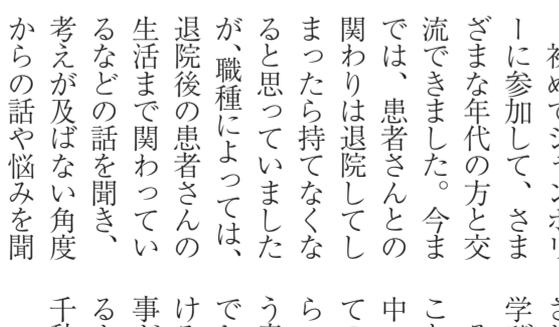
初めてジャンボリに参加して、さまざまな年代の方と交流できました。今までは、患者さんとの関わりは退院してしまっただけで、退院後の患者さんの生活まで関わっているなどの話を聞き、考えが及ばない角度からの話や悩みを聞

くことができ、大変勉強になりました。本部長 西岡 成椰

グループ課題で「ヤングケアラー」について学びました。学習前の認識では、大人が介護しているなかでちょっとしたお手伝いをする程度と捉えていました。実際は、介護のために学校を辞める、将来の夢を追えない、介護中心の生活となるため友人との遊びなどもできず、対象者に強い嫌悪感をもってしまうことも多く、自分自身に嫌気がさしてしまう人が多いと学びました。

そういった人にもできることとして、地域の小・中・高などで介護についての勉強会などができた方がいいのではないかと意見が出ました。職場でヤングケアラーを見かける機会があれば、困り事がないか、声かけできるようにしたいです。

千秋病院 ひまわり病棟 鈴木 大輝



初めにジャンボリに参加して、さまざまな年代の方と交流できました。今までは、患者さんとの関わりは退院してしまっただけで、退院後の患者さんの生活まで関わっているなどの話を聞き、考えが及ばない角度からの話や悩みを聞くことができ、大変勉強になりました。本部長 西岡 成椰

グループ課題で「ヤングケアラー」について学びました。学習前の認識では、大人が介護しているなかでちょっとしたお手伝いをする程度と捉えていました。実際は、介護のために学校を辞める、将来の夢を追えない、介護中心の生活となるため友人との遊びなどもできず、対象者に強い嫌悪感をもってしまうことも多く、自分自身に嫌気がさしてしまう人が多いと学びました。

そういった人にもできることとして、地域の小・中・高などで介護についての勉強会などができた方がいいのではないかと意見が出ました。職場でヤングケアラーを見かける機会があれば、困り事がないか、声かけできるようにしたいです。

千秋病院 ひまわり病棟 鈴木 大輝